

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年9月実績 速報版(パネル270)

8月実績 確報版(パネル270)

(2019年10月23日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年10月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年9月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	90,223,217	100.0%	101.0%	99.6%
食品合計	81,768,643	90.6%	100.4%	98.9%
生鮮3部門合計	30,408,189	33.7%	97.6%	96.1%
青果	12,789,169	14.2%	96.8%	95.4%
水産	7,505,932	8.3%	99.1%	97.6%
畜産	10,113,087	11.2%	97.7%	95.8%
惣菜	9,516,413	10.5%	102.4%	100.9%
日配	17,679,990	19.6%	100.0%	98.2%
一般食品	24,164,050	26.8%	103.7%	102.3%
非食品	6,219,352	6.9%	110.1%	108.5%
その他	2,235,276	2.5%	100.3%	99.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,391,728	43	100.6%	98.3%
関東地方	33,646,216	73	101.5%	100.3%
中部地方	11,107,850	53	101.1%	99.6%
近畿地方	19,287,129	44	100.7%	99.3%
中国・四国地方	9,057,394	34	100.8%	99.6%
九州・沖縄地方	4,732,899	23	99.8%	100.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	625,557	45	95.4%	96.8%
4~10店舗	4,313,837	79	97.5%	98.4%
11~25店舗	9,478,506	58	100.1%	98.7%
26~50店舗	16,213,150	44	101.0%	99.3%
51店舗以上	59,592,167	44	101.4%	99.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	87,211,303	
総店舗数 (店舗)	8,007	店舗平均月商 (万円)	11,268	
総売場面積 (㎡)	13,293,787	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年10月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年8月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,744,744	100.0%	99.8%	98.7%
食品合計	85,869,786	90.6%	99.8%	98.6%
生鮮3部門合計	31,646,466	33.4%	98.4%	97.2%
青果	13,259,797	14.0%	95.8%	94.8%
水産	8,026,474	8.5%	100.7%	99.3%
畜産	10,360,195	10.9%	100.1%	98.7%
惣菜	10,501,532	11.1%	101.2%	100.0%
日配	18,520,199	19.5%	100.1%	98.6%
一般食品	25,201,590	26.6%	100.7%	99.8%
非食品	6,346,122	6.7%	100.9%	100.0%
その他	2,529,106	2.7%	99.7%	98.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,613,824	43	100.5%	99.1%
関東地方	34,001,518	73	100.0%	98.8%
中部地方	12,053,092	53	100.2%	99.0%
近畿地方	20,160,121	44	99.5%	98.2%
中国・四国地方	9,529,749	34	97.6%	97.8%
九州・沖縄地方	5,386,440	23	100.8%	98.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	688,276	45	93.1%	94.2%
4~10店舗	4,461,638	78	95.8%	96.9%
11~25店舗	10,250,518	59	98.8%	98.6%
26~50店舗	17,346,089	44	100.2%	99.0%
51店舗以上	61,998,222	44	100.2%	98.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	91,837,415	
総店舗数 (店舗)	8,002	店舗平均月商 (万円)	11,840	
総売場面積 (㎡)	13,300,819	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.1	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年9月エリア別気候状況

気温の特徴：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では高かった

上旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では平年並だった。

中旬：沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高かった。

下旬：北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

2018年9月との比較：特に上旬と下旬は全国的に前年よりかなり気温が高かった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年9月			2018年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	2.8	0.0	0.8	0.7	0.5	0.5	2.1	-0.5	0.3
東北地方	2.4	0.7	1.7	0.2	0.0	0.3	2.2	0.7	1.4
関東甲信地方	2.1	0.8	2.7	0.6	-0.7	0.1	1.5	1.5	2.6
北陸地方	2.0	0.8	1.7	-0.5	-0.5	0.0	2.5	1.3	1.7
東海地方	2.2	1.5	2.6	0.3	-0.7	-0.1	1.9	2.2	2.7
近畿地方	2.2	1.1	2.4	-0.6	-0.4	-0.3	2.8	1.5	2.7
中国地方	2.4	1.3	1.7	-1.0	0.0	0.1	3.4	1.3	1.6
四国地方	1.3	1.5	2.1	-1.0	0.2	0.1	2.3	1.3	2.0
九州北部	1.3	1.6	1.4	-0.6	0.9	0.2	1.9	0.7	1.2
九州南部・奄美地方	1.1	1.4	1.6	-0.3	0.9	0.4	1.4	0.5	1.2

平年差

+2°C以上

+1°C以上



前年差

+2°C以上

+1°C以上



日照時間の特徴：北日本と東日本日本海側でかなり多かった

上旬：北日本でかなり多く、東日本と西日本太平洋側では多かった。

中旬：西日本でかなり多く、東日本で多かった。

下旬：北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と東日本太平洋側で多かった。

2018年9月との比較：特に上旬と下旬は前年に比べ日照時間が長い地域が多かった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年9月			2018年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	152	88	126	90	161	74	62	-73	52
東北地方	119	130	129	59	138	67	60	-8	62
関東甲信地方	117	116	136	65	85	64	52	31	72
北陸地方	134	123	100	68	89	67	66	34	33
東海地方	136	117	98	61	73	73	75	44	25
近畿地方	134	136	93	54	67	62	80	69	31
中国地方	120	138	79	63	62	68	57	76	11
四国地方	111	141	81	60	80	76	51	61	5
九州北部	117	116	136	71	72	74	46	44	62
九州南部・奄美地方	103	116	90	78	113	55	25	3	35

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%



前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%



降水量の特徴：北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なかった

上旬：北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側で少なかった。東日本太平洋側で多かった。

中旬：東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と、西日本で少なかった。

下旬：西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、北・西日本太平洋側と東日本で少なかった。

2018年9月との比較：特に上旬と下旬は前年より降水量のかなり少ない地域が多かった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年9月			2018年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	20	82	106	61	8	54	-41	74	52
東北地方	85	39	59	157	22	172	-72	17	-113
関東甲信地方	160	56	20	209	98	206	-49	-42	-186
北陸地方	46	26	45	379	104	0	-333	-78	45
東海地方	126	16	30	329	71	215	-203	-55	-185
近畿地方	41	56	28	491	76	253	-450	-20	-225
中国地方	53	38	89	402	0	256	-349	38	-167
四国地方	72	16	53	529	86	213	-457	-70	-160
九州北部	111	24	145	174	0	159	-63	24	-14
九州南部・奄美地方	103	42	108	211	85	261	-108	-43	-153

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%



前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%



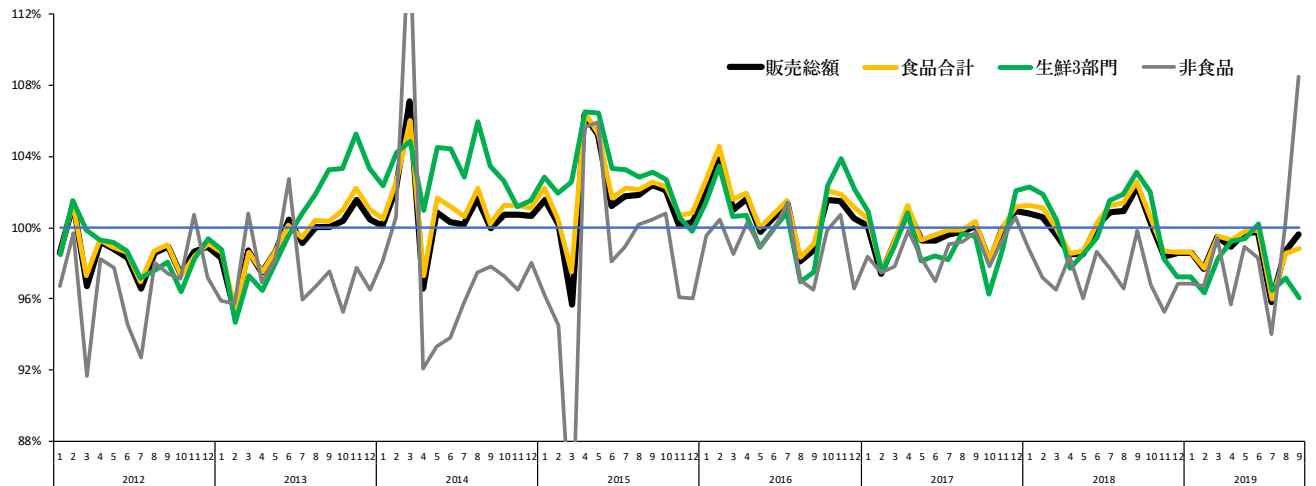
気象庁ホームページ・報道発表資料「9月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

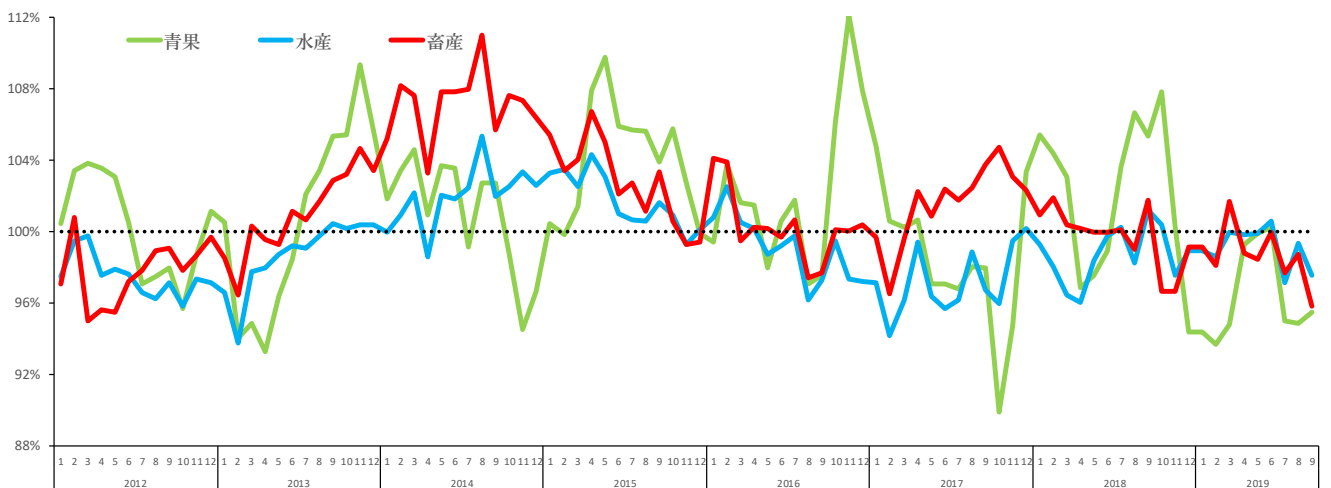
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

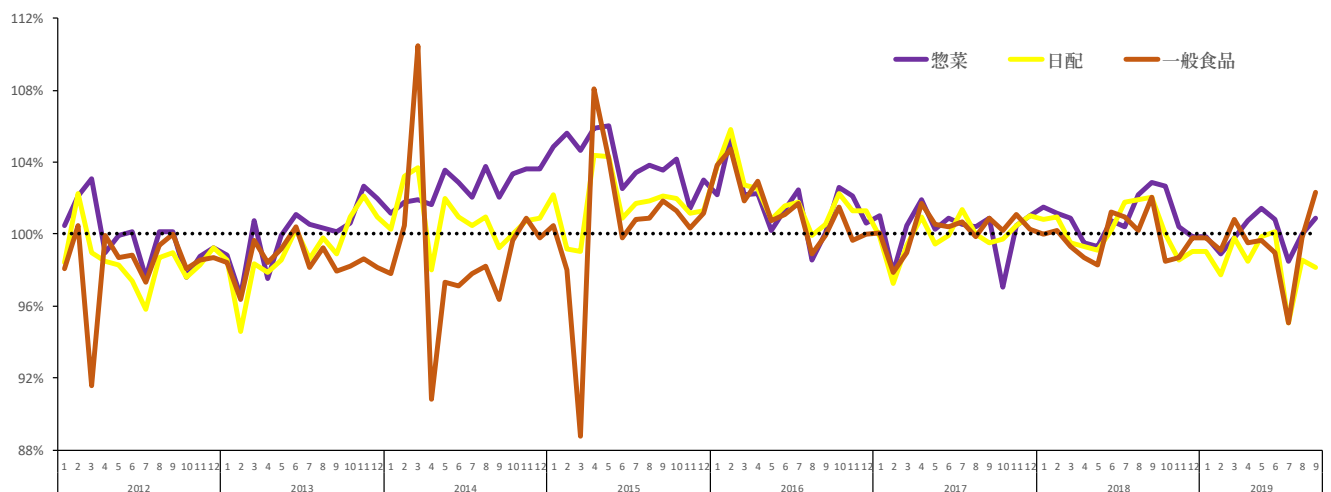
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年9月実績は速報値

スーパーマーケット景気動向調査

2019年10月調査結果（9月実績）
（2019年10月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は小幅に改善

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から+2.5の43.0、見通し判断は前月から+1.5の38.0となり、共に小幅な改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べマイナス幅を縮小した。月の後半になって、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が非食品カテゴリーを中心に発生、酒類など一般食品の一部でもみられたこと、併せて台風15号の接近・上陸前後の買い置き、被災地での特需が影響した。

カテゴリー動向調査では、駆け込み需要があった非食品DIが13.3と大幅なプラスとなったほか、一般食品DIもプラスを記録した。前年から比べ相場が安定しており、また高い気温により秋物商戦が不振となっており、青果DIや畜産DIは二桁のマイナスとなった。サンマの記録的不漁の影響を受けた水産DIも低迷した。好天の日が多かった恩恵もあり、惣菜カテゴリーはプラスとなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、現状判断でやや改善しているが、見通し判断は翌月の税率引き上げを控え、わずかな改善にとどまっている。（長期傾向についてはp11参照）

小売側の増税前セールの実施や、軽減税率制度への理解不足などの影響で、税率が据え置かれる食品の一部にも駆け込みと思われる動きがみられた。キャッシュレスポイント還元制度などの負担軽減策に対する消費者の反応も不透明であり、今後の消費動向に対する警戒感が高い状況が続いている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 43.0 (+2.5) 前月：40.5	消費者購買意欲DI 当月： 45.3 (+5.1) 前月：40.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.4 (+1.8) 前月：38.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.1 (+1.1) 前月：42.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 38.0 (+1.5) 前月：36.5	消費者購買意欲DI 当月： 37.8 (+0.6) 前月：37.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 37.5 (-0.9) 前月：38.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 40.5 (+0.7) 前月：39.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -6.8 (+6.5) 前月：-13.3	客単価DI 当月： -4.4 (-4.7) 前月：0.3	来客数DI 当月： -6.5 (+8.6) 前月：-15.1	
収益DI 当月： -8.0 (-0.9) 前月：-7.1	販売価格DI 当月： 2.5 (+1.4) 前月：1.1	生鮮品仕入原価DI 当月： 1.2 (+1.9) 前月：-0.7	食品仕入原価DI 当月： 5.9 (+2.6) 前月：3.3

カテゴリー動向

青果DI 当月： -14.7 (+7.6) 前月：-22.3	水産DI 当月： -7.5 (-3.8) 前月：-3.7	畜産DI 当月： -15.5 (-8.7) 前月：-6.8	
惣菜DI 当月： 4.0 (+8.1) 前月：-4.1	日配DI 当月： -8.8 (+0.2) 前月：-9.0	一般食品DI 当月： 3.2 (+8.8) 前月：-5.6	非食品DI 当月： 13.3 (+18.4) 前月：-5.1

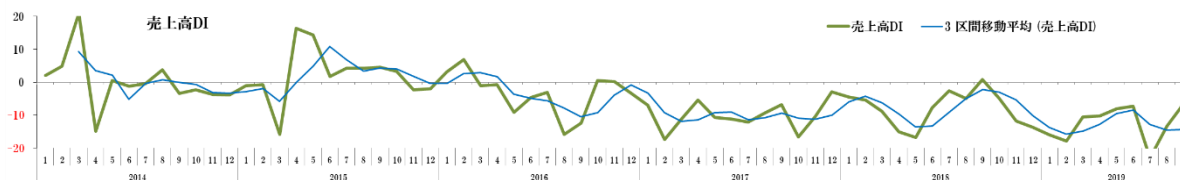
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

マイナス幅をやや縮小

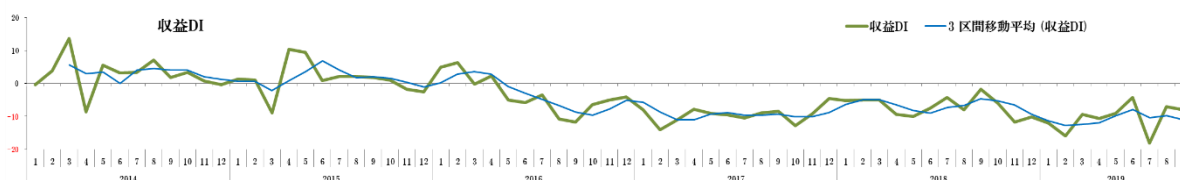
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	16.7	39.7	25.0	17.3	1.3	-13.3
売上高 (当月)	13.5	33.8	24.3	23.0	5.4	-6.8



2. 収益DI

前月水準のマイナス圏で推移

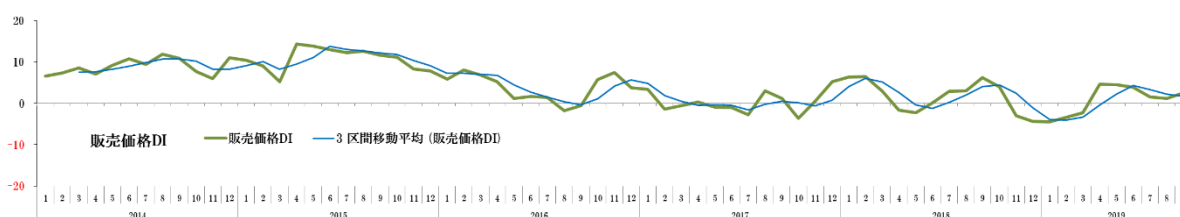
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	12.5	34.2	28.3	19.1	5.9	-7.1
収益 (当月)	14.6	30.6	31.3	19.4	4.2	-8.0



3. 販売価格DI

わずかながらプラス水準を維持

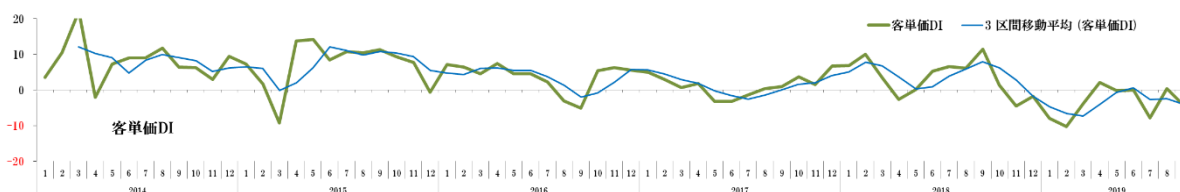
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	18.7	58.7	21.9	0.6	1.1
販売価格 (当月)	0.0	14.2	61.5	24.3	0.0	2.5



4. 客単価DI

再びマイナス圏へ

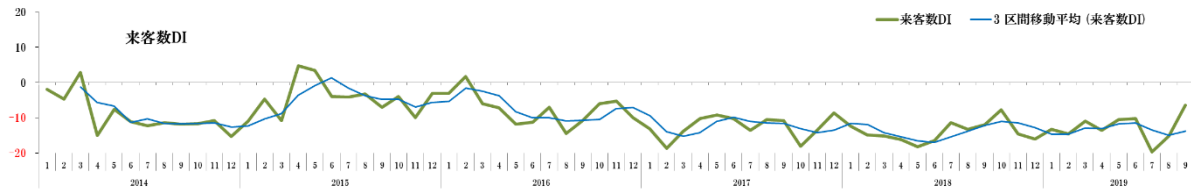
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.5	22.3	46.5	28.7	0.0	0.3
客単価 (当月)	3.4	29.9	47.6	19.0	0.0	-4.4



5. 来客数 DI

マイナス幅をやや縮小

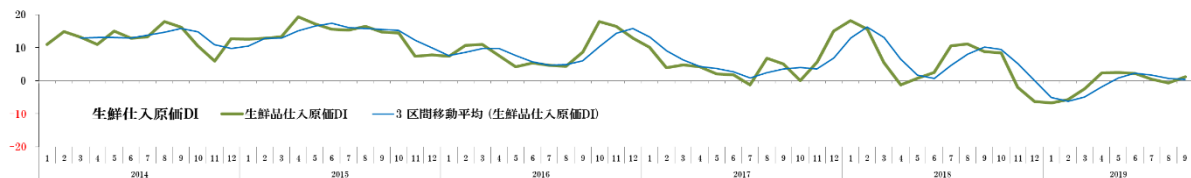
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	14.0	47.1	25.5	12.1	1.3	-15.1
来客数 (当月)	10.3	34.2	30.8	20.5	4.1	-6.5



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなプラス圏

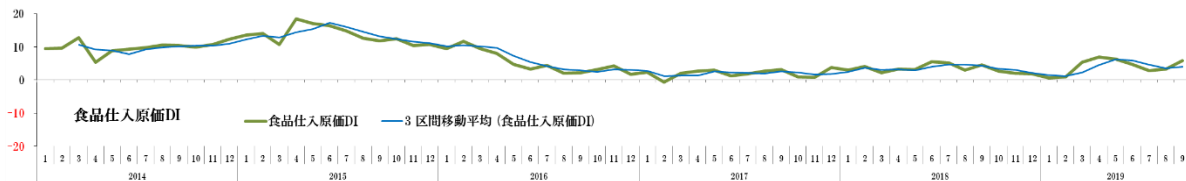
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.7	20.7	54.0	22.0	0.7	-0.7
生鮮仕入原価 (当月)	4.2	15.3	52.8	27.1	0.7	1.2



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	11.3	61.6	21.9	3.3	3.3
食品仕入原価 (当月)	2.1	7.6	59.3	26.9	4.1	5.9

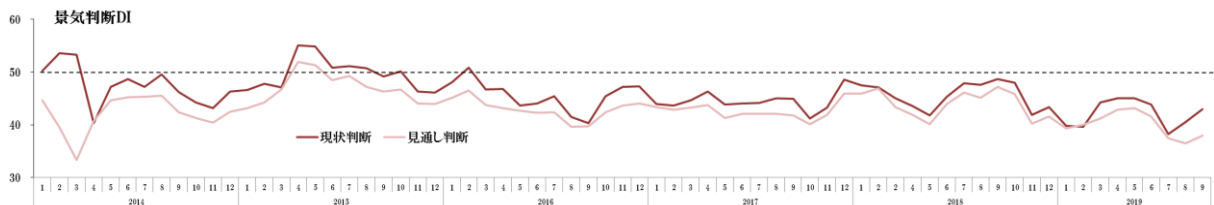


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しともやや改善

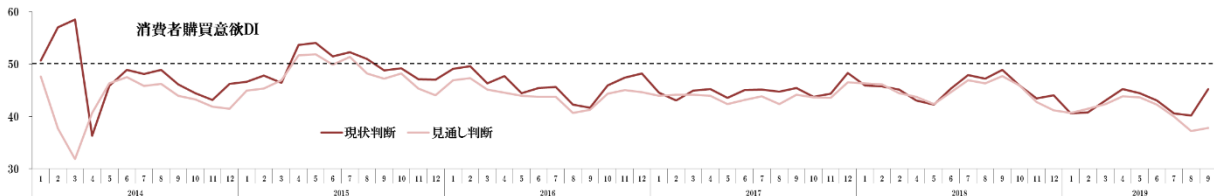
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.7	32.3	56.3	5.7	0.0	40.5
【現状】景気判断 (当月)	6.0	30.2	51.0	11.4	1.3	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	7.6	43.3	44.6	4.5	0.0	36.5
【見通し】景気判断 (当月)	7.4	41.2	43.2	8.1	0.0	38.0



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大きく改善も、見通し判断は横ばい

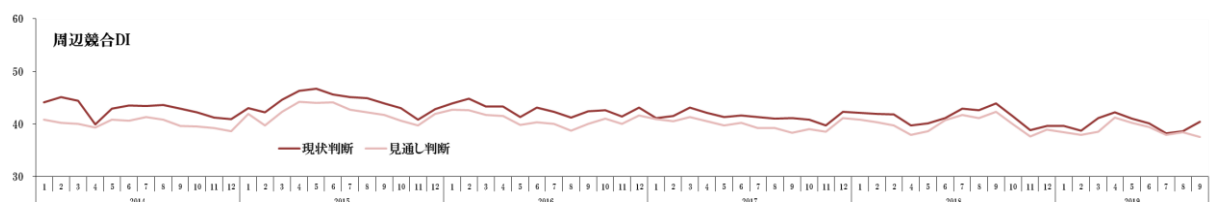
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	4.4	36.1	53.8	5.7	0.0	40.2
【現状】購買意欲 (当月)	4.0	28.2	52.3	13.4	2.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	5.7	42.4	49.4	2.5	0.0	37.2
【見通し】購買意欲 (当月)	6.8	41.9	45.3	5.4	0.7	37.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅に改善も、見通し判断は小幅に悪化

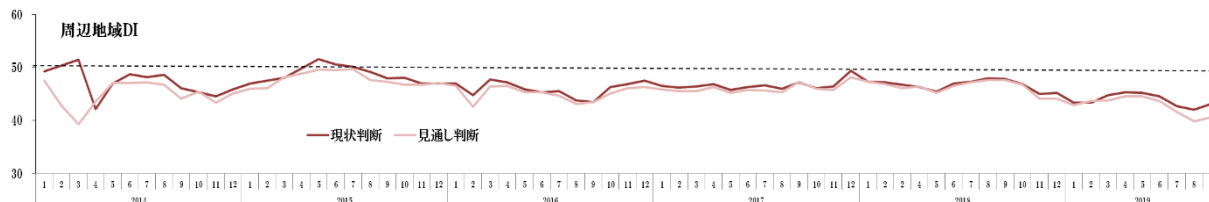
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.3	34.8	57.0	1.9	0.0	38.6
【現状】競合状況 (当月)	9.4	24.2	61.7	4.7	0.0	40.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.1	38.0	55.1	1.9	0.0	38.4
【見通し】競合状況 (当月)	9.6	34.9	51.4	4.1	0.0	37.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに小幅に改善

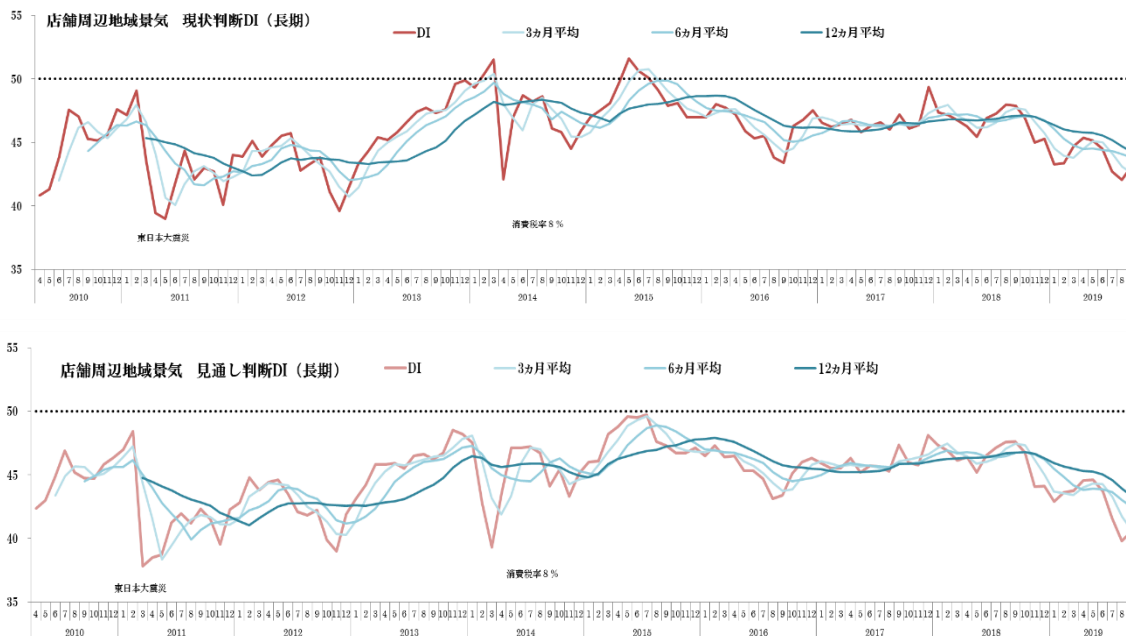
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.3	29.9	68.2	0.6	0.0	42.0
【現状】地域景気 (当月)	3.4	24.8	67.8	4.0	0.0	43.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	3.2	35.7	59.9	1.3	0.0	39.8
【見通し】地域景気 (当月)	4.1	33.1	59.5	3.4	0.0	40.5



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

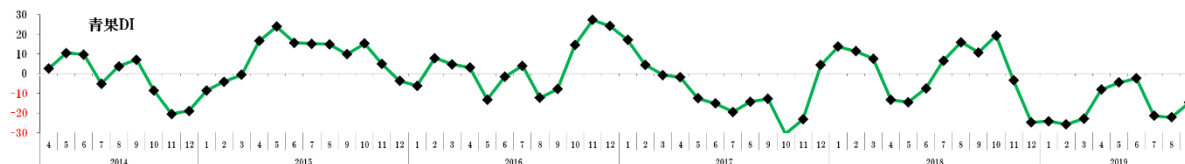
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年8月には現状判断DIは42.0まで低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-14.7（不調）

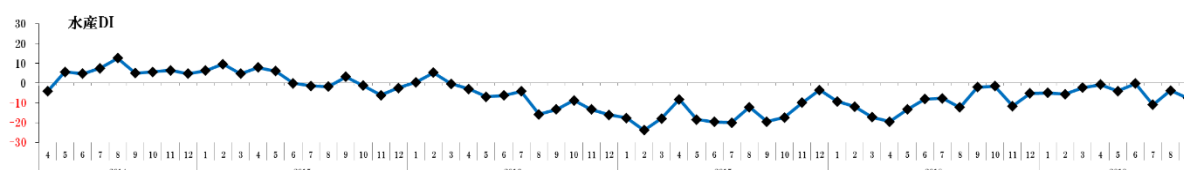
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	28.4	44.6	15.5	10.8	0.7	-22.3
青果（当月）	18.9	38.5	27.3	13.3	2.1	-14.7



前年は猛暑や台風被害などの影響で野菜相場が高騰しており、今年は反動により単価が下落し不調となった。月を通じて気温が高く、葉物や根菜類、キノコ類などの鍋用野菜の動きが悪かった。サラダ関連は好調だが、トマト類の相場下落が影響し伸び悩んだ。果物類では相場高、入荷不足傾向にあるなか、シャインマスカットや梨の動きがよかった。輸入果物ではキウイフルーツを好調とする店舗がみられた。

2. 水産DI：-7.5（やや不調）

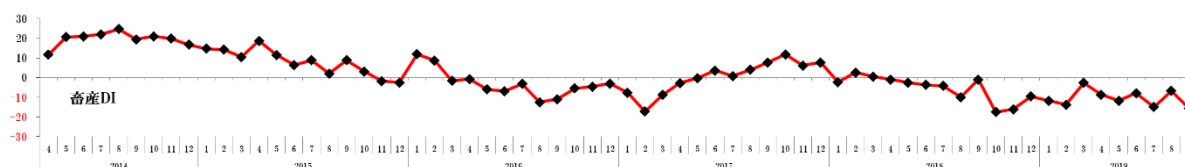
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.1	31.1	33.1	23.0	4.7	-3.7
水産（当月）	13.3	28.7	37.1	16.8	4.2	-7.5



旬のサンマは前年やや漁獲量が回復、相場が低下したことで大幅な売上増となったが、今年は記録的な不漁となり大きく売上が落ちた。イカの不漁の影響も続いているため、代わって秋鮭や筋子に力をいれた店舗が多く、好調となった店舗もみられた。刺身類は好不調の判断がわかれている。

3. 畜産DI：-15.5（不調）

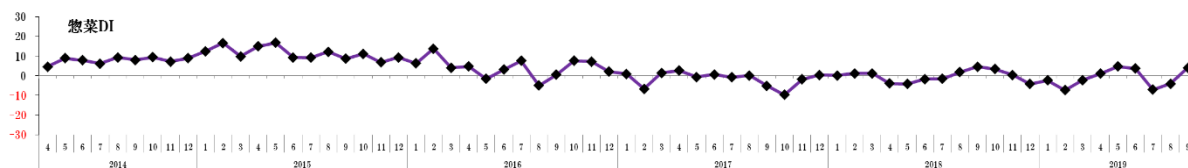
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	11.5	33.8	28.4	23.0	3.4	-6.8
畜産（当月）	21.8	33.1	31.0	13.4	0.7	-15.5



牛肉は、前年より気温が高くステーキ・焼肉用などの動きがよかった。連休や週末などは、ブランド牛、それ以外は輸入牛の動きがよかった。豚肉は豚コレラの影響で相場が上昇、ホットメニューの減少により不調となった。鶏肉は、販売数量自体は伸びているものの、相場安傾向となっており伸び悩んだ。加工肉の売上回復傾向を指摘するコメントもみられた。

4. 惣菜DI：4.0（やや好調）

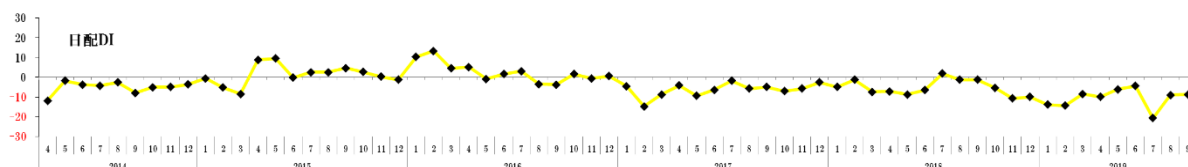
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.4	35.8	28.4	22.3	6.1	-4.1
惣菜（当月）	7.7	17.6	34.5	31.0	9.2	4.0



高い気温により、おつまみメニューの動きがよかった。好天に恵まれた地域では、行楽需要の高まりで米飯類が恩恵を受けた。一方でホットメニューや寿司類は伸び悩んだ店舗が多かった。新メニュー開発や売場改善などが成果をあげている一方で、メニューのマンネリ化を課題にあげる店舗もみられた。

5. 日配DI：-8.8（やや不調）

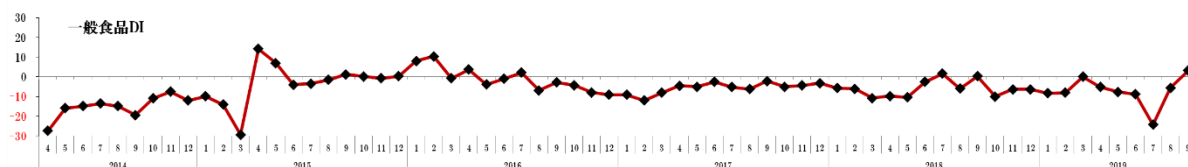
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	12.2	34.7	32.7	17.7	2.7	-9.0
日配（当月）	14.1	29.6	36.6	16.9	2.8	-8.8



高い気温によりアイス、飲料は好調となったが、おでん関連や麺類などホット商材が不調となった。そのため前年好調だった納豆や梅干し、漬物（キムチ）などの反動減もみられた和日配カテゴリーが厳しい結果に。一方で、前年仕入れが不安定だった牛乳をはじめとする乳製品は好調となった。パン類では一部に台風15号の接近による買いだめ需要がみられた地域もあった。

6. 一般食品：3.2（やや好調）

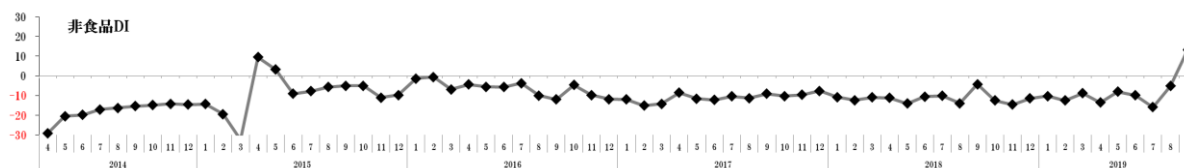
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.8	32.0	34.0	23.1	2.0	-5.6
一般食品（当月）	6.3	23.9	31.7	26.8	11.3	3.2



酒類、みりんや医薬部外品の飲料には税率引き上げ前の駆け込み需要がみられた。なぜか米類にも駆け込み需要があったとのコメントがみられた。高い気温により、飲料などの夏物商材が好調となった一方で、カレーやシチュー、スープなどホット商材などは不調となった。台風15号接近前の買いだめ需要、被災地での特需が発生した店舗がみられた。値上げのため低迷していたインスタント麺類も買いだめ需要で売上の回復がみられた。高い気温の影響か、菓子類を不調とするコメントが多くみられた。

7. 非食品 DI : 13.3 (好調)

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品 (前月)	10.6	30.3	33.1	21.1	4.9	-5.1
非食品 (当月)	6.5	13.7	26.6	26.6	26.6	13.3



税率引き上げ前の駆け込み需要による日用雑貨品は総じて好調となった。台風 15 号の接近・上陸後の被害による特需も発生している。たばこは、前年値上げの仮需が発生した反動で伸び悩んだ。好天に恵まれた地域では、運動会・行楽関連商品の動きがよかった。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しいとのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2019 年 10 月調査 (9 月実績) キーワード TOP3

1. 高い気温
2. さんまの不漁
3. 駆け込み需要

(参考) 2018 年 10 月調査 (9 月実績) キーワード TOP3

1. 土日が一回多い
2. 青果相場高
3. 地震と台風の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9 月実績速報版 149 社
 8 月実績確報版 158 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp